

予算ゲーム と 混雑ゲーム の 共通の一般化

清末 風雅 SCSK (株)

高澤 兼二郎 法政大

2022.12.06 コンピューテーション研究会 @ 愛媛大

予算ゲーム：例

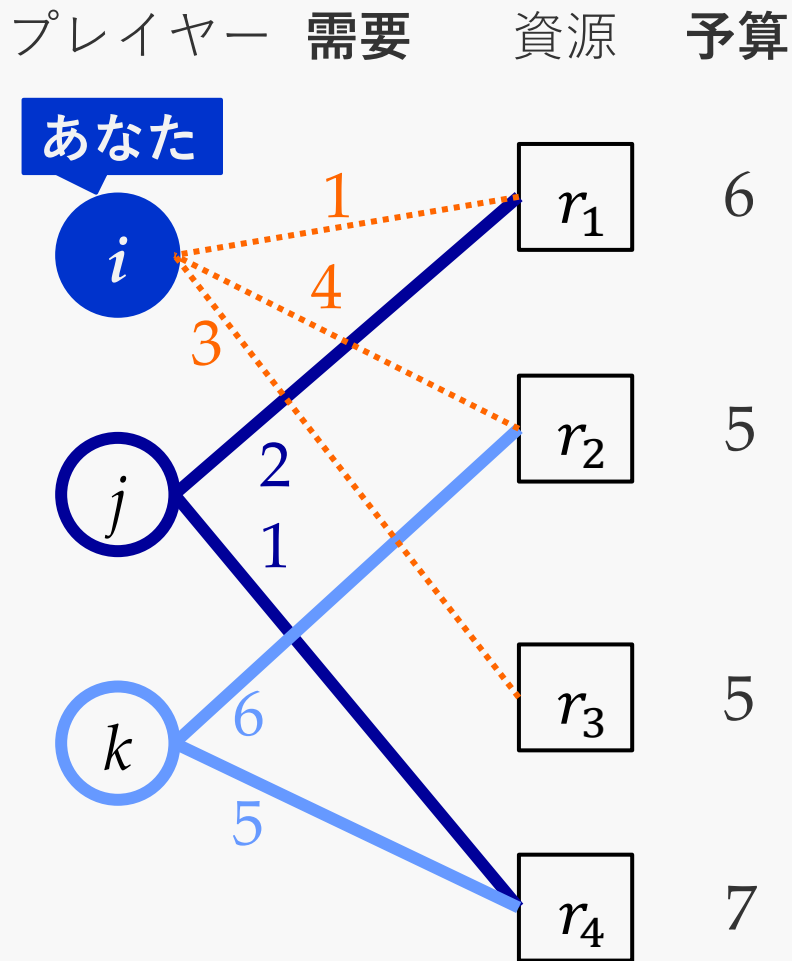
[Drees, Feldotto, Riechers, Skopalik 2015]²

プレイヤー i の戦略

- ▶ $S = \{r_1, r_2\}$
- ▶ $S' = \{r_1, r_3\}$

資源 r から得る効用

- ▶ r への総需要が r の予算を超えない
- ▶▶ 効用 = 需要そのもの
- ▶ r への総需要が r の予算を超える
- ▶▶ 効用 = 予算を需要に比例して配分



予算ゲーム：例

[Drees, Feldotto, Riechers, Skopalik 2015]³

プレイヤー i の戦略

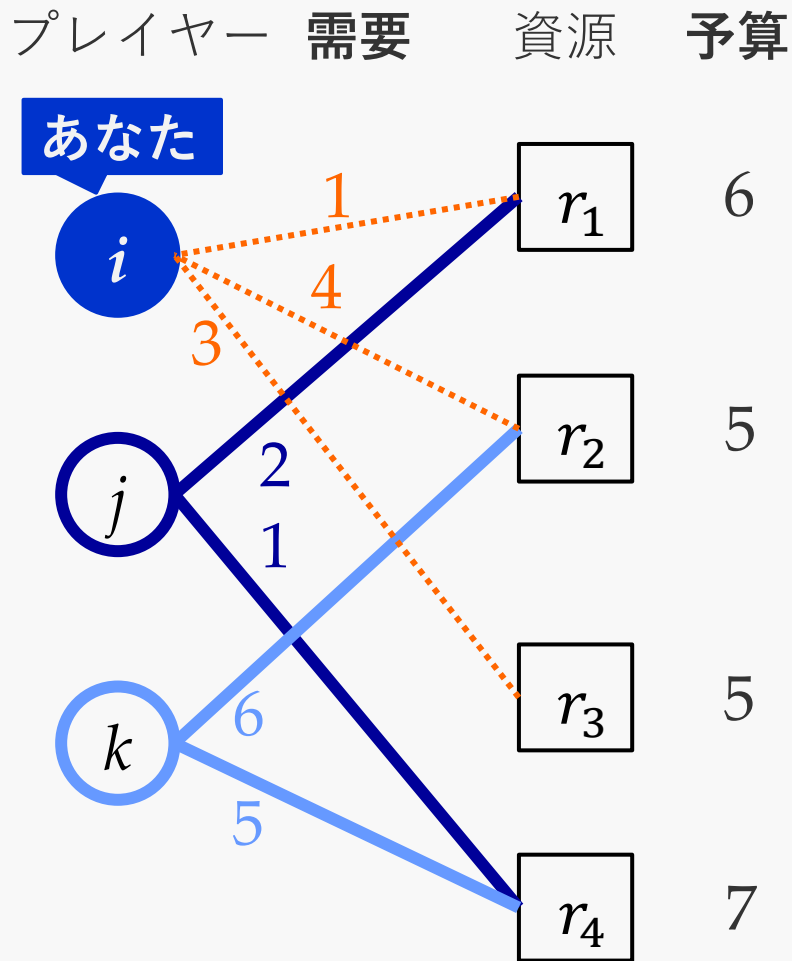
- ▶ $S = \{r_1, r_2\}$
- ▶ $S' = \{r_1, r_3\}$

プレイヤー i が各資源から得る効用

- ▶ $r_1 : 1$
- ▶ $r_2 : 5 \cdot \frac{4}{4+6} = 2$
- ▶ $r_3 : 3$

プレイヤー i の各戦略の効用

- ▶ $S : 1 + 2 = 3$
- ▶ $S' : 1 + 3 = 4$

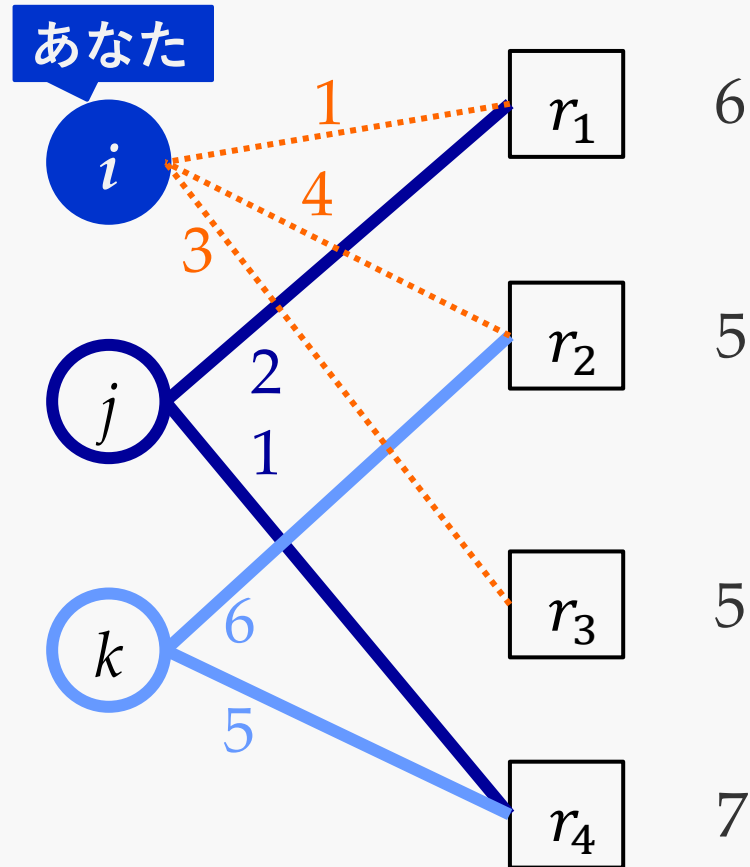


- ▶ プレイヤーの集合 $N = \{1, 2, \dots, n\}$
- ▶ 資源の集合 R
- ▶ $i \in N$ の戦略 $S_i \subseteq R$
- ▶ $i \in N$ の戦略空間 $\mathcal{S}_i \subseteq 2^R$
- ▶ $i \in N$ の $r \in R$ への需要 $d_r(i) \in \mathbf{R}$
- ▶ $r \in R$ の予算 $b_r \in \mathbf{R}$

- ▶ 状態 $S = \{S_1, S_2, \dots, S_n\}$
- ▶ r への総需要 $d_r(S) = \sum_{i:r \in S_i} d_r(i)$

効用 $u_{i,r}(S) = \min \left\{ d_r(i), d_r(i) \cdot \frac{b_r}{d_r(S)} \right\}$
 合計効用 $u_i(S) = \sum_{r \in S_i} u_{i,r}(S)$

プレイヤー 需要 $d_r(i)$ 資源 予算 b_r



動機: 予算ゲームと混雑ゲーム [Rosenthal 1973] の類似性

- ▶ 一つの資源へのプレイヤー数の増加 ▶▶ 効用の減少 (コストの増加)
- ▶ 戦略空間のマトロイド構造 ▶▶ 純粋ナッシュ均衡
- ▶ 理論的な考察: なし

提案モデル: 一般化予算ゲーム

- ▶ 予算ゲームと混雑ゲームの共通の一般化

定理: 純粋ナッシュ均衡

- ▶ 戦略空間のマトロイド構造 ▶▶ 純粋ナッシュ均衡
- ▶ 特殊ケースに対する $O(n)$ 時間アルゴリズム

先行研究

- ▶ 予算ゲーム
- ▶ 混雑ゲーム

定理 [Drees, Feldotto, Riechers, Skopalik 2019]

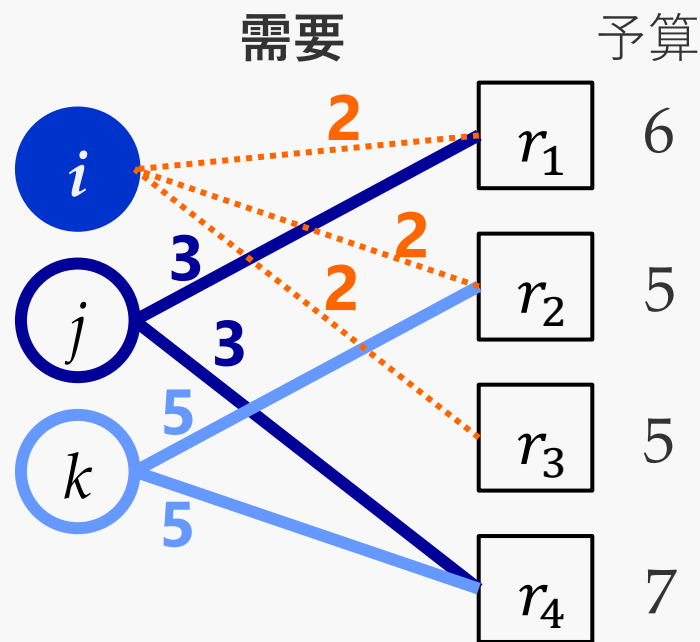
- ▶ (1) かつ (2) をみたす予算ゲームは, 純粋ナッシュ均衡をもつ
- ▶ (1) をみたす予算ゲームで, 純粋ナッシュ均衡をもたないものがある

性質 (1): 固定需要

各プレイヤー i について,
ある $d(i) \in \mathbf{R}$ が存在して,
すべての資源 $r \in R$ について $d_r(i) = d(i)$

性質 (2): マトロイドゲーム

各プレイヤー i の戦略空間 \mathcal{S}_i が
マトロイドの基族



オフセット予算ゲーム

- ▶ 資源 $r \in R$ のオフセット $\alpha_r \in \mathbb{R}$

$$u_{i,r}(\mathcal{S}) = \min \left\{ d_r(i), d_r(i) \cdot \frac{b_r}{d_r(\mathcal{S}) + \alpha_r} \right\}$$

予算ゲーム

$$u_{i,r}(\mathcal{S}) = \min \left\{ d_r(i), d_r(i) \cdot \frac{b_r}{d_r(\mathcal{S})} \right\}$$

定理 [Drees, Feldotto, Riechers, Skopalik 2019]

以下のいずれかのオフセット予算ゲームは純粋ナッシュ均衡をもつ

- ▶ マトロイドゲームで、全資源数 $|R| = 2$
- ▶ 以下の 1.–3. をみताす

1. 戦略の資源数 $|S_i| = 1$

$$(i \in N, S_i \in \mathcal{S}_i)$$

2. $d_r(i) \geq d_r(j)$

$$(1 \leq i < j \leq n, r \in R)$$

3. $i < j, d_r(i) \geq d_{r'}(i) \implies \frac{d_r(i)}{d_{r'}(i)} \geq \frac{d_r(j)}{d_{r'}(j)}$

$$(r, r' \in R)$$

プレイヤー i の戦略

- ▶ $S = \{r_1, r_2\}$
- ▶ $S' = \{r_1, r_3\}$

プレイヤー i が各資源を使うコスト

- ▶ $r_1 : 2$
- ▶ $r_2 : 2 \cdot 2 = 4$
- ▶ $r_3 : 1^2 = 1$

プレイヤー i の各戦略のコスト

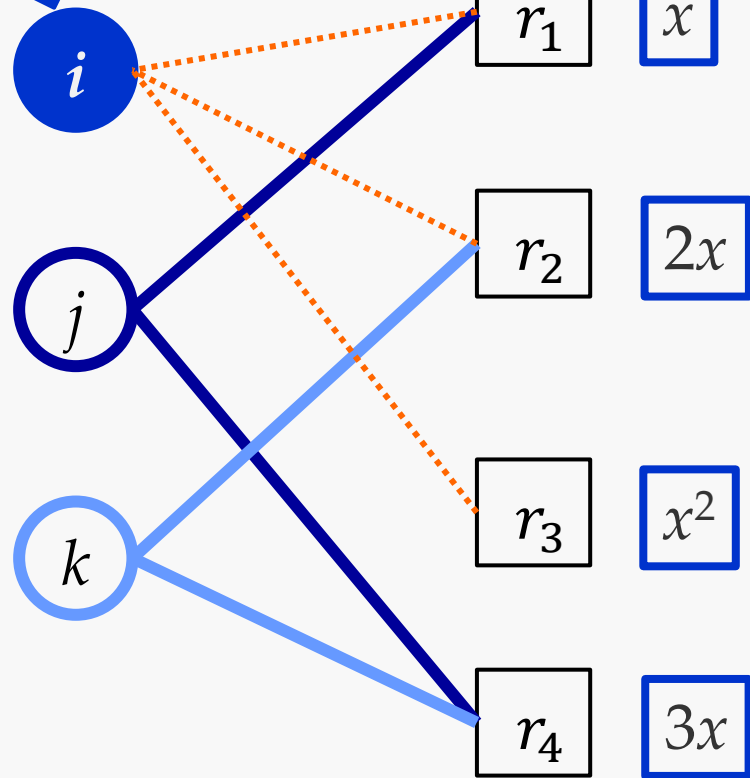
- ▶ $S : 2 + 4 = 6$
- ▶ $S' : 2 + 1 = 3$

プレイヤー

資源

コスト

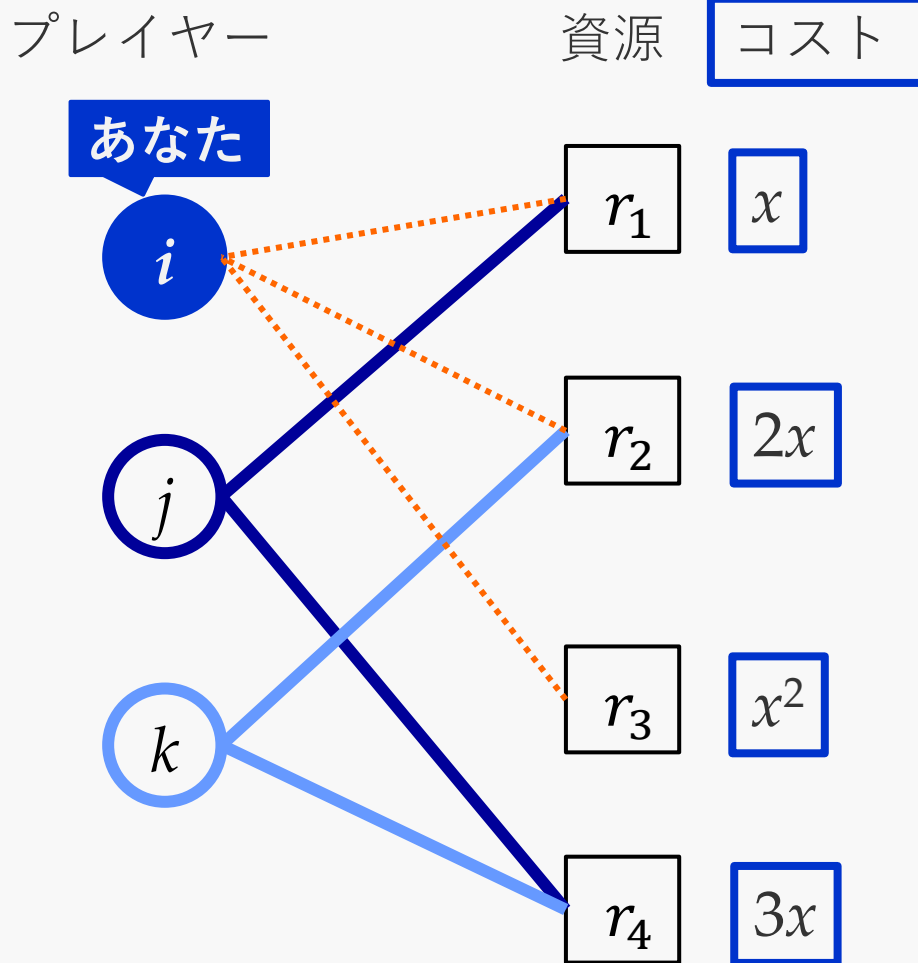
あなた



- ▶ プレイヤーの集合 $N = \{1, 2, \dots, n\}$
- ▶ 資源の集合 R
- ▶ $i \in N$ の戦略 $S_i \subseteq R$
- ▶ $i \in N$ の戦略空間 $\mathcal{S}_i \subseteq 2^R$
- ▶ $r \in R$ のコスト関数 $c_r: N \rightarrow \mathbb{R}$
[単調非減少]

- ▶ 状態 $S = \{S_1, \dots, S_n\}$ において
 - ▶ $N_r(S) = \{i \in N \mid r \in S_i\}$
 - ▶ プレイヤー i の合計コスト

$$\sum_{r \in S_i} c_r(|N_r(S)|)$$

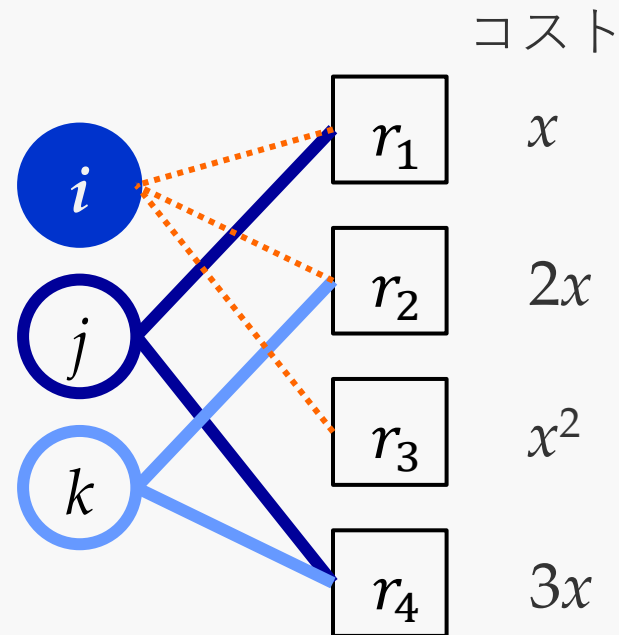


定理 [Rosenthal 1973]

- ▶ 任意の混雑ゲームはポテンシャルゲーム
 - ▶ 純粋ナッシュ均衡が存在
(ポテンシャルを最小化する状態 S)

定理 [Monderer, Shapley 1996]

- ▶ 任意のポテンシャルゲームは混雑ゲーム

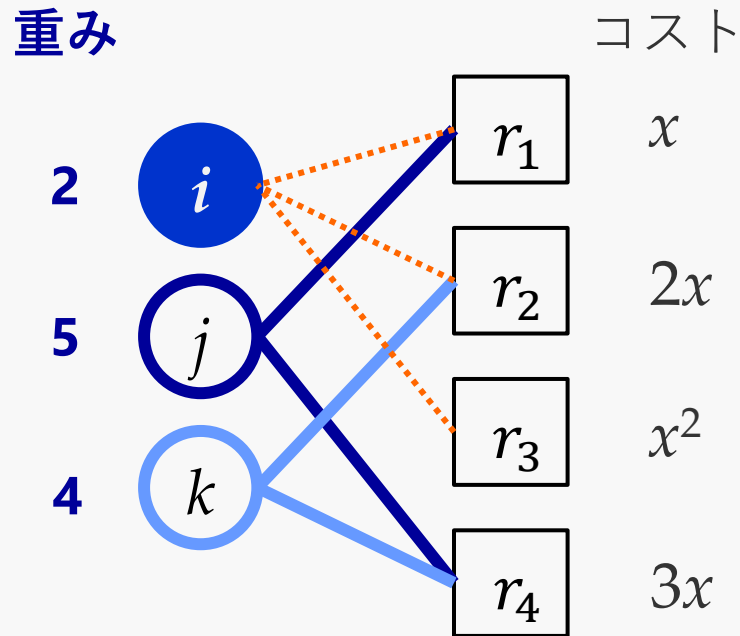


重み付き混雑ゲーム

- ▶ プレイヤー i の重み $w(i) \in \mathbf{R}$
- ▶ 資源 r を使うコスト = $c_r(w(N_r(\mathcal{S})))$

混雑ゲーム

- ▶ $N_r(\mathcal{S}) = \{i \in N \mid r \in S_i\}$
- ▶ 資源 r を使うコスト = $c_r(|N_r(\mathcal{S})|)$



定理 [Ackermann, Röglin, Vöking 2009]

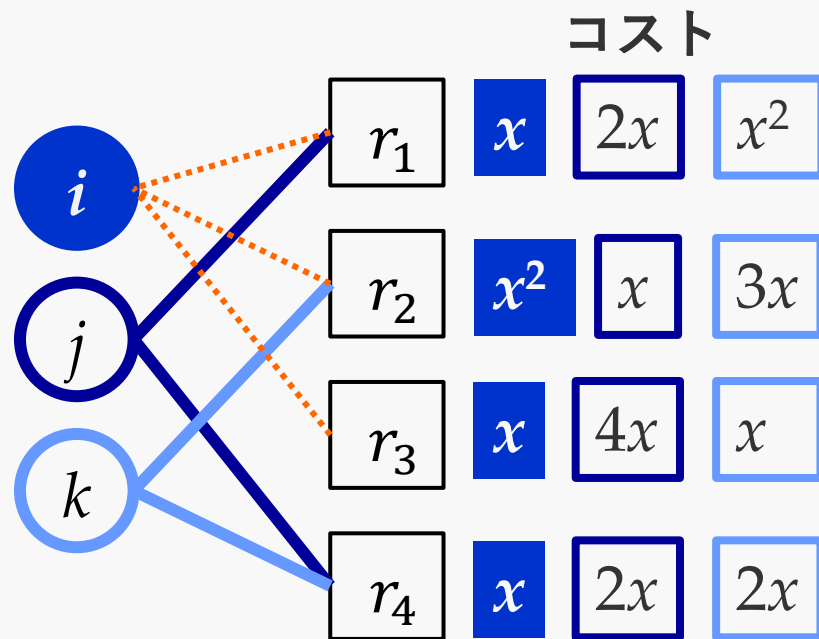
- ▶ 重み付きマトロイド混雑ゲームは純粋ナッシュ均衡をもつ
- ▶ 重み付き混雑ゲームで、純粋ナッシュ均衡をもたないものがある

プレイヤー固有コスト

- ▶ 全プレイヤー共通のコスト関数 $c_r(\cdot)$
- ▶▶ プレイヤー固有のコスト関数 $c_{i,r}(\cdot)$ に一般化

定理 [Ackermann, Röglin, Vöking 2009]

- ▶ プレイヤー固有コストのマトロイド混雑ゲームは純粋ナッシュ均衡をもつ
- ▶ プレイヤー固有コストの混雑ゲームで、純粋ナッシュ均衡をもたないものがある



本研究

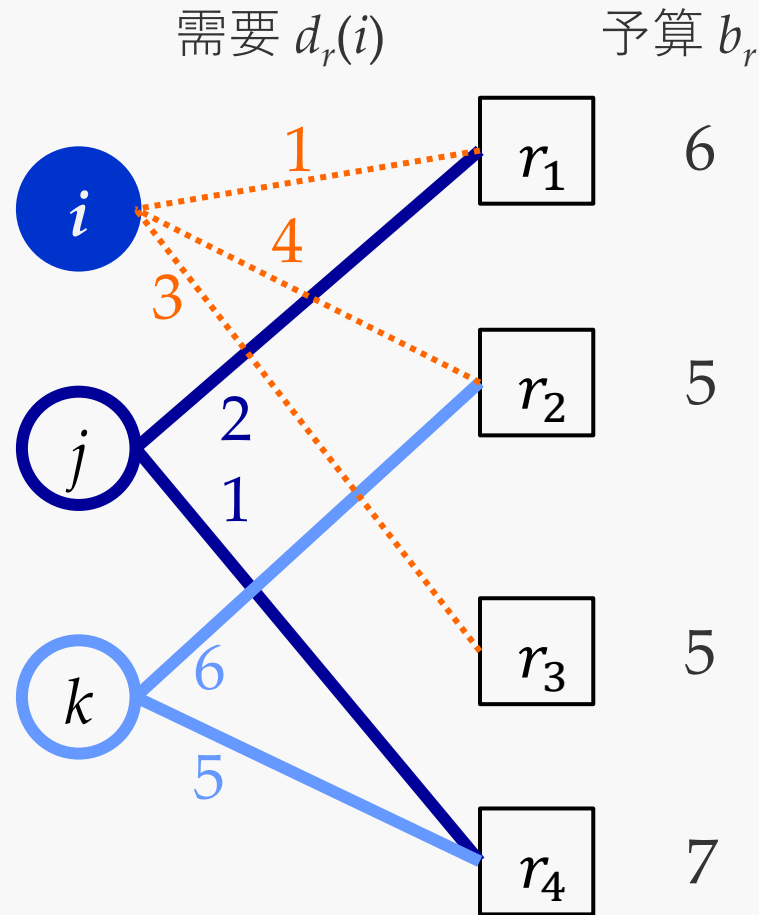
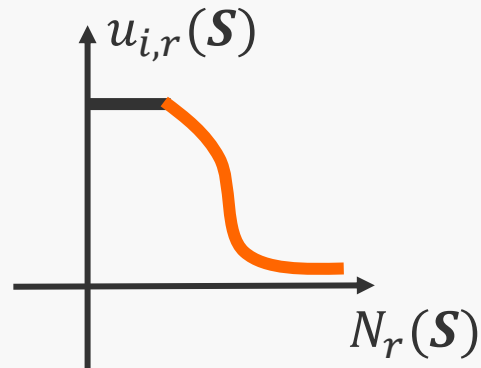
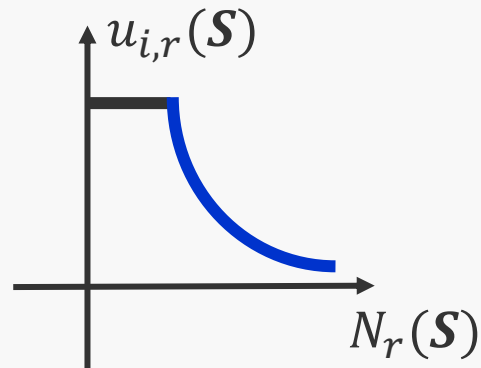
- ▶ 一般化予算ゲーム
- ▶ 純粹ナッシュ均衡

予算ゲーム

▶ 効用 $u_{i,r}(\mathbf{S}) = \min \left\{ d_r(i), d_r(i) \cdot \frac{b_r}{d_r(\mathbf{S})} \right\}$
 $= d_r(i) \cdot \min \left\{ 1, \frac{b_r}{d_r(\mathbf{S})} \right\}$

一般化予算ゲーム

- ▶ 狭義単調減少な集合関数 $f_r: 2^N \rightarrow \mathbf{R}$
 ▶ 効用 $u_{i,r}(\mathbf{S}) = d_r(i) \cdot \min\{1, f_r(N_r(\mathbf{S}))\}$



含まれるモデル

一般化予算ゲームに含まれるモデル

- ▶ 予算ゲーム / オフセット予算ゲーム
- ▶ 重み付き混雑ゲーム / プレイヤーが固有のコストをもつ混雑ゲーム

予算ゲーム

$$f_r(N') = \frac{b_r}{d_r(N')}$$

オフセット予算ゲーム

$$f_r(N') = \frac{b_r}{d_r(N') + \alpha_r}$$

重み付き混雑ゲーム

- ▶ $f_r(N') = 1 - \frac{c_r(w(N'))}{L}, d_r(i) \equiv 1$
- ▶ $u_i(\mathbf{S}) = \sum_{r \in S_i} d_r(i) \cdot \min\{1, f_r(N_r(\mathbf{S}))\}$
 $= \sum_{r \in S_i} \left(1 - \frac{c_r(w(N_r(\mathbf{S})))}{L}\right)$
 $= |S_i| - \frac{1}{L} \cdot \sum_{r \in S_i} c_r(w(N_r(\mathbf{S})))$

仮定 $|S_i| = |S'_i| \quad (S_i, S'_i \in \mathcal{S}_i)$

コスト $c_r: \mathbf{R} \rightarrow \mathbf{R}$ が狭義単調減少 ($r \in R$)

定理 1 [本研究]

- ▶ (1) かつ (2) をみたす一般化予算ゲームは純粋ナッシュ均衡をもつ

定理 [Drees, Feldotto, Riechers, Skopalik 2019] 再掲

- ▶ (1) かつ (2) をみたす予算ゲームは純粋ナッシュ均衡をもつ

定理 [Ackermann, Röglin, Vöking 2009] 再掲

- ▶ (2) をみたす重み付き混雑ゲームは純粋ナッシュ均衡をもつ

性質 (1): 固定需要

各プレイヤー i について、
ある $d(i) \in \mathbf{R}$ が存在して、
すべての資源 $r \in R$ について
需要 $d_r(i) = d(i)$

性質 (2): マトロイドゲーム

各プレイヤー i の戦略空間 S_i が
マトロイドの基族

定理 1 [本研究]

- ▶ (1) かつ (2) をみたす一般化予算ゲームは純粋ナッシュ均衡をもつ

系 1a [本研究]

- ▶ (1) かつ (2) をみたすオフセット予算ゲームは純粋ナッシュ均衡をもつ

- ▶▶ 資源数 $|R|$ や $|S_i|$ に制約のないオフセット予算ゲームへの初の定理

定理 [Drees, Feldotto, Riechers, Skopalik 2019] 再掲

以下のいずれかのオフセット予算ゲームは純粋ナッシュ均衡をもつ

- ▶ マトロイドゲームで、全資源数 $|R| = 2$
- ▶ 以下の 1.–3.をみたす

1. 戦略の資源数 $|S_i| = 1$ $(i \in N, S_i \in \mathcal{S}_i)$

定理 2 [本研究]

以下をみたす一般化予算ゲームの
純粋ナッシュ均衡は $O(n)$ 時間で計算可能

- ▶ 戦略の資源数 $|S_i| = 1$ ($i \in N, S_i \in \mathcal{S}_i$)
- ▶ 性質 (1): 固定需要
- ▶ $f_r(N' \cup \{i\}) \leq f_r(N' \cup \{j\})$ ($1 \leq i < j \leq n$)

略証

- ▶ プレイヤー $1, \dots, n$ の順に, その時点で最適な戦略を選ぶ

定理 1 [本研究]

- ▶ (1) かつ (2) をみたす一般化予算ゲームは純粋ナッシュ均衡をもつ

証明 (1/2)

- ▶ 状態 $\mathbf{S} = (S_1, \dots, S_n)$, $\mathbf{S}_{-i} = (S_1, \dots, S_{i-1}, S_{i+1}, \dots, S_n)$
- ▶ プレイヤー $i \in N$ の向上試行 S_i' : $u_i(S_i', \mathbf{S}_{-i}) > u_i(S_i, \mathbf{S}_{-i})$
- ▶ (2) マトロイドゲームより,
 $|S_i' \setminus S_i| = 1$ の向上試行 (Lazy move) を考えれば十分
- ▶ 状態 \mathbf{S} のポテンシャル $\phi(\mathbf{S}) = (v_{r_1}(\mathbf{S}), v_{r_2}(\mathbf{S}), \dots, v_{r_m}(\mathbf{S})) \in \mathbf{R}^m$
 - ▶ $v_r(\mathbf{S}) = \frac{u_{i,r}(\mathbf{S})}{d(i)} = \min \left\{ 1, \frac{b_r}{d_r(\mathbf{S})} \right\}$ を昇順に並べたベクトル

証明 (2/2)

- ▶ ポテンシャル $\phi(\mathbf{S}) \in \mathbf{R}^m$: $v_r(\mathbf{S}) = \frac{u_{i,r}(\mathbf{S})}{d(i)} = \min\left\{1, \frac{b_r}{d_r(\mathbf{S})}\right\}$ の昇順
- ▶ **主張**: Lazy move により, ポテンシャルが辞書式に真に増加する
 - ▶ Lazy move $S'_i = (S_i \setminus \{r\}) \cup \{r'\}$ ▶▶ 状態 $S' = (S'_i, S_{-i})$
 - ▶ $\phi(\mathbf{S}) = (\dots, v_r(\mathbf{S}), \dots, v_{r'}(\mathbf{S}'), \dots)$
 - ▶ $\phi(\mathbf{S}') = (\dots, v_r(\mathbf{S}'), \dots, v_{r'}(\mathbf{S}'), \dots)$
 - ▶ 向上試行なので $u_{i,r'}(\mathbf{S}') > u_{i,r}(\mathbf{S})$
 - ▶ **(1) 固定需要** より $v_{r'}(\mathbf{S}') > v_r(\mathbf{S})$
 - ▶ 特に, $v_r(\mathbf{S}) < 1$
 - ▶ $d_r(\mathbf{S}') = d_r(\mathbf{S}) - d(i)$ と $v_r(\mathbf{S}) < 1$ より, $v_r(\mathbf{S}') > v_r(\mathbf{S})$
- ▶ **主張**より, 有限回の Lazy move の後に, ポテンシャルが辞書式に最大
 - ▶▶ Lazy Move が存在しない ▶▶ 純粋ナッシュ均衡である ■

おわりに

- ▶ **まとめ**
- ▶ **今後の課題**

まとめと今後の課題

まとめ

▶ 一般化予算ゲームの提案

▶ 純粋ナッシュ均衡の存在性

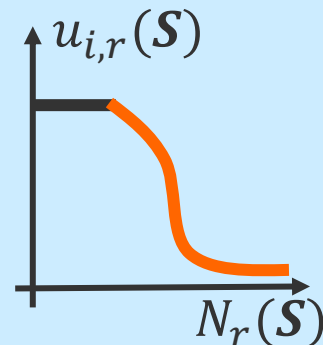
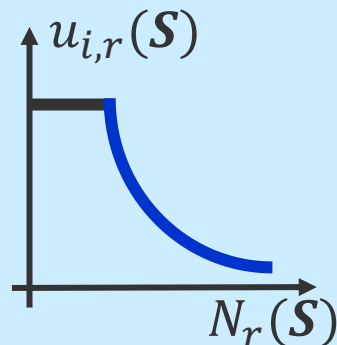
▶ マトロイド予算ゲーム

▶ 重み付きマトロイド混雑ゲーム

▶ 特殊ケースに対する $O(n)$ アルゴリズム

▶ 狭義単調減少な集合関数 $f_r: 2^N \rightarrow \mathbb{R}$

▶ 効用 $u_{i,r}(S) = d_r(i) \cdot \min\{1, f_r(N_r(S))\}$



今後の課題

▶ 純粋ナッシュ均衡への到達速度

▶ 重み付き混雑ゲームでの向上試行回数の下界 [Ackermann et al. 2009]

▶ ボトルネック混雑ゲームとの関係 [Banner, Orda 07]

[Harks, Klimm, Möhring 09] [Harks, Hoefer, Klimm, Skopalik 13]